

● Infomation ● イベントカレンダー

新河岸川水系水環境連絡会 イベント情報

「新河岸川流域・身近な川の一斉調査 2005」 報告会&シンポジウム

新河岸川流域での一斉調査は、今年で10年目となり、水質調査以外の様々な活動へ広がっています。また、全国での一斉調査は、今年で2年目となり、昨年の倍近くの参加団体・調査地点へと発展しています。恒例の報告会とシンポジウムを今年も開催しますので、皆さんの参加をお待ちしています。

日 時：平成17年11月27日(日) 午前10時～午後4時半
会 場：朝霞市リサイクルプラザ「エコネットあさか」3F

内 容：【第1部】「伝える」をテーマに 参加 小・中・高生の発表
・朝霞市立第三小学校 ・板橋区立桜川小学校
・東村山市立第三中学校 ・志木市立宗岡中学校
・埼玉県立所沢西高等学校 ・明法学院中学・高等学校
・自由学園中学・高等学校 ※参加予定校

【第2部】レポート「一斉調査データから見た今年の特徴」
丹野忠弘 新河岸川水系水環境連絡会

今年で10回目だってさあ
凄いいことだよな〜！?

【第3部】基調講演「都市災害・中小都市河川の諸問題(仮題)」
宮武見司 元・国土交通省荒川下流事務所 調査課長
(現・国土交通省 大臣官房技術調査課工事監視官)

問合せ：048-466-0916 (藤井)

エコシティ志木 イベント情報

志木まるごと博物館 お宝交流シンポジウム(第3回)

～今に残る志木の歴史と自然「みんなで作ろう!! 志木のお宝マップ」～

「お宝」とは次の世代に引き継ぎたい地域の自然や文化遺産などの「地域資源」のこと。志木市周辺の貴重な自然や文化遺産を、市民の視点でピックアップし、お宝マップづくりを楽しみましょう!

日 時：平成17年11月27日(日) 午後1時半～4時半
会 場：志木市いろは遊学館 2F「視聴覚室」

内 容：【第1部】事例紹介を予定
・郷土史研究家 安斎達雄「荒川の横堤について」
・ニュータイムス編集長 岩下 隆「志木の町を見つめてきたタイムスの歴史」ほか
【第2部】志木のお宝マップづくり
・(指導する人) NPO法人ハンスオン! 埼玉 若尾明子

参加費：500円

主 催：NPO法人エコシティ志木
(財)埼玉県生態系保護協会志木支部 ほか

問合せ：048-471-4275 (毛利)

お宝マップづくりかあ...
楽しそうだなあ〜!?

事務局便り

11月初旬に行われた今年度 第6回目の連絡会は、開催場所をJR武蔵野線と西武池袋線の結節点である「秋津」に移したこともあってか、総勢16名のメンバーが集まり「今後の継続的な川づくり活動」等について意見を交わしました。

次回の連絡会も今回同様に「秋津」で行う予定ですので、師走の最中ではありますが奮ってご参加下さい。

里川へのご意見ご要望などは、右の連絡先までご一報下さい。

●連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
TEL: 03-3902-3220 FAX: 03-3902-2346
URL: <http://www.ara.or.jp/arage/shingashi/>
E-mail: shingashi@ara.or.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん



発 行 ●新河岸川流域川づくり連絡会 (荒川下流河川事務所 調査課内)
住 所 ●東京都北区志茂5-41-1 TEL:03-3902-3220 FAX:03-3902-2346
発行日 ●2005年(平成17年)11月11日

VOL.37



切り絵 毛利得助

11月になって少しずつではありますが、秋の深まりを感じるようになりましてね!朝夕もめっきり涼しくなり、首周りや足元に吹きこむ風がとて冷たいですが、皆さん風邪などひかぬように暖かくしてお出掛け下さい。さて、今号では、そんな秋の深まりを紙面からも感じていただこうと、流域内で行われた秋の川まつりを2つレポートいたしました。食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋に加えて川まつりの秋。な〜んて、少しでも多くの人々に意識してもらえるように、川づくり連絡会メンバーは、この秋から冬にかけて積極的に活動していきますので、どうぞよろしくお願いたします。

目次

- P2-3 レポート:秋の川まつり(越戸川・白子川)
- P4-6 特集:第8回 川づくり見学会
～黒目川見学会・交流会～
- P7 レポート:お魚調査隊in不老川
- P8 流域イベント・インフォメーション
事務局便り

秋の川まつり（越戸川・白子川）

7月から8月の新河岸川のリレーフェスティバルでは、流域内の7河川で合計9つの川まつりが行われましたが、この10月にも流域内の2河川で、それは秋らしい(?)川まつりが実施されました。ここでは、朝霞市と和光市の市境を流れる越戸川と、練馬区・板橋区・和光市を流れる白子川の川まつりをレポートします。

10.29 越戸川（和光）

越戸川・川まつり ～第9回 和光新発見&川遊び～

去る10月29日（土）に、和光市の越戸川（赤池公園）にて「第9回 和光新発見&川遊び」が開かれました。当日の天気予報は「雨降り」を告げていましたが、たぶん、参加された人々の日頃の行いが良いからでしょう..何とか雨に降られることなくすべてのイベントを実施することができました。

主なイベントは「水族館」や「ボート乗り」など。水族館の設営では、「黒目川に親しむ会」の名人衆が得意のタモ網を使って多くの魚たちを追い込み、それは見事な水族館を作ってくれました。そして、忘れてならないのが、この川まつりを特徴づけるイベント..「芋掘り」です。会場は場所を変え、赤池公園より10分ほど上流に歩いた畑になります。事前予約で180人の申し込みがあった上に、当日の飛び入り参加もあり、何と200人を越える参加者が芋掘りに参加しました。ところ狭しと畑に入り、汗を拭き拭き芋を掘る姿は、他の川まつりでは決して見ることのできない食欲の秋(?)の情景でした。

なお、今回掘り起こした芋の種類はサツマイモとヤーコンでした。ヤーコンはキク科の植物ですが、初めて見る人も多く、「どうやって食べるの?」といった質問が多々寄せられました。芋掘りの参加者には、1人に2株づつのサツマイモと、トータル100株のヤーコンが配られました。



魚を捕っているそばから子供たちが覗きにきます。興味深々ですね～!



巨大なマズにウシガエルをゲットしました!たらの直径はおよそ50cm位かなあ?



定番のボート乗りですが、乗車率が高く、定員オーバーの様相です。



テント下の展示に興味を示してくれたのは大人たちでした。



お昼時には焼きそばの香ばしい臭いが会場に..そろそろお腹もベコベコかぁ～!



こちらは芋掘りの様子です。いや、それにしてもすごい人数が集まりましたね～!



親子でサツマイモを掘っています。土の感触は如何ですか?



おっと!これは大きな株が掘れましたね～!今回で最も大きいサイズかなあ?

10.30 白子川（練馬）

第5回 白子川源流まつり ～湧き水と生きもの豊かな白子川源流にしましょう!～

翌30日（日）には、練馬区の大泉井頭公園にて、「白子川源流まつり」が開かれました。今年で5回目になることもあってか、昨年を上回る大勢の参加者でにぎわいました。

会場が都市河川の白子川、それも最上流部に位置する大泉井頭公園内ということもあって、水に入れる箇所が少なく、また水深も浅いので、水辺を利用したイベントこそ「ペットボトルいかだ」のみでしたが、水中映像の投影会や水質・水量の検査コーナーの他、川に関する展示や雨水浸透施設のコーナーなど、川まつりらしいイベントが盛りだくさん。中でも公園内に設けられた特設ステージでは、近隣小学校の生徒さんたちによる学習発表やハーモニカ・ファゴットなどの演奏会が行われ、参加した人々の目や耳を引き付けていました。正に芸術の秋(?)ですね..!

なお、今回の「白子川源流まつり」の開催に当たっては、まず初めに実行委員長の本田さんより、この川まつりのアピール文の発表があり、参加者の満場一致の拍手をもって内容が確認されました。以下にその内容を記します。



和光市白子町の昔の様子が絵で再現されました。川が生活に活かされていました。



大泉南小学校4年生の「白子川調べ」の学習発表です。ちょっと緊張してたかなあ?



ステージ前の客席はほぼ満席の状態でした。特に小学生の発表時は凄かったあ～!



川への想いを曲にファゴットで演奏します。素晴らしい音色でした!



川に関わる展示が沢山ありました。参加者の皆さんも興味深々ですね!



こちらは白子川や井頭公園を散歩する犬を撮影した「白子がワンコ」の展示です。



ボーイスカウト練馬17団の皆さんは手作りゲームで応援してくれました。



唯一の水辺の遊びはこの「ペットボトルいかだ」です。ちゃんと順番を守ってるね!

第5回 白子川源流まつり アピール文

私たちは、白子川の源流である井頭公園の水辺を愛しています。立派に自然な湧き水が湧き、水辺の生き物に満ちています。

ところが、大地の保水力が弱って地下水が細り、時には干上がる状況にもなってきてしまっています。みんなで大地の保水力の回復をする努力が必要になってきています。

また一方、大雨の時、汚水混じりの下水が入ってしまいます。下水道の改善も必要です。

一緒にみんなで、白子川の清い流れを守り、改善するために何が必要かを考え、「湧き水と生き物豊かな白子川源流に!」の主権語の下、「出来ることを出来るところから for Shirako River」を合い言葉に、努力していきたいと思います。

～第8回 川づくり見学会～

黒目川見学会・交流会の報告です!



集合：東村山駅



2. 柳窪
さいかち窪より少し下流にあります。東京都の自然環境保全地域に指定されています。東久留米ホトケドジョウを守る会の豊福さんが説明してくれました。



3. 南沢水辺公園
河川改修によって発生した残土を盛って造られました。市民組織「水辺公園のなかまたち」の皆さんで管理しています。落合川の河道内には水ニョリやミクリ等の水草が育っていました。



4. 憩いの水辺
落合川尻沙門橋の下流に整備されています。市民の意見を取入れ、河川用地を活用した河道拡幅を行うことで、緩いのり面の整備が可能となりました。休日には多くの市民でにぎわっているとのこと。



6. 新高橋下流
写真は、市民団体の要望により整備された遊歩道です。



7. 朝霞調節池
平成16年度に供用を開始したこの池は50万 m^3 の洪水調節容量を有しています。平成16年の台風22号時に初めて洪水調節を行い、毎秒19 m^3 の流量をカットしました。なお、写真奥に見える林はオオタカの営巣地になっているため、当面は保全されることになっています。



1. さいかち窪
その昔、さいかちの林があったことから名付けられた説もあります。残念ながらさいかちはほとんど残っていませんでした。



5. 妙音沢
埼玉県立新座高校橋の斜面に湧いています。降雨後だったこともありかなりの湧水量が確認できました。急傾斜地崩壊危険区域に指定されているため蛇籠によりのり面が補強されています。



交流会会場 わくわくドーム 会議室の様子
見学会の後に、東京都および埼玉県の河川担当者を交えた交流会を行いました。交流会では、まず初めに、東京都河川部計画課の伊藤さん、埼玉県新河岸川総合治水事務所の葉林さんから黒目川の川づくりの基本的な考え方を話していただいた後、フリーディスカッション形式での話し合いを行いました。内容の概略は次ページを参照下さい。

凡例

- 徒歩
- → バスコース
- 県道
- 国道
- 県道・主要地方道
- ++++ 鉄道

去る10月29日(土)に、第8回 川づくり見学会 を実施しました。

今回は「黒目川の河川環境と治水を知る」をテーマに、黒目川の河川環境と治水の状況および、これまでに実施されている諸施策や市民による川づくり活動等について見学しました。

黒目川は、都営小平公園内の雑木林に囲まれた「さいかち窪」を水源とし、東久留米市、新座市、朝霞市と流れて新河岸川へ合流する全長15.10km、流域面積37.56 km^2 の一級河川です。

武蔵野台地の北縁に当たるこの流域は、縄文時代から人が住んでいたため遺跡群が数多く発見されたこと、また南沢をはじめとする湧水が所々で湧いていることなどが特徴となっていますが、その一方で、新河岸川の他の支川同様、昭和30年代以降の急激な都市化による遊水機能の低下などにより、下流ではたびたび浸水の被害が生じるなど、治水対策が急がれている流域でもあります。また、河道改修の影響等で在来の魚種が減少するなど、かつての河川環境や河川景観にも変化が生じています。

なお、今回は支川の落合川を含む、合計7箇所を見学しました。

交流会での主な意見など！

- ・ 落合川が現況河道に沿ったかたちで改修できたことについて、そのポイントが何だったのかをお聞かせ下さい。
- ・ 沿川に都営住宅という都の用地があったことが大きいと思います。沿川住民に改修について理解してもらうため、シンポジウムを開催したり、学識経験者に来てもらったりもしました。また、都議会にも請願書を提出するなど、幅広い運動を行いました。そして何よりも、私たちの気持ちに都が応えてくれたことが、最も大きな要因だと思います。
- ・ また、落合川の最上流部の整備に当たっては、その場所にホトケドジョウの生息が確認されたこともあり、一時は反対運動なども起こりました。しかし、市民による上流部集水域の再調査により、掘削をさせないようにしたことで、ホトケドジョウも保全されたという経緯があります。
- ・ 不老川では現在河道の整備が進んでいるが、今回の整備で直線化された区間については元の河道に戻すようにして欲しいです。
- ・ 市民は余り川に対する知識がなく、その一方で行政は、従来からの治水に偏った改修にとらわれすぎていように思えます。双方がそれぞれの欠点を補うことが重要ではないでしょうか。
- ・ 確かに市民も今以上に勉強する必要があると思います。特に治水については河川行政として引けない部分があると思うので、まずは、治水の問題を解決すること。そうすれば環境の問題が一気に進むということ、これまでの経験から感じています。

こちらは
当日に記入してもらった
アンケートへの
自由意見です！



アンケートでの自由意見！

- ・ 交流会では、落ち着いたフランクな話し合いができて良かったです。
- ・ 黒目川の護岸構造等が、現在整備が進んでいる不老川にとって、とても参考になりました。
- ・ 黒目川の自然資源が豊かなことは羨ましい限りです。また、それを守っていかうとする努力が、官・民の双方に感じられました。ただし問題点として、一点、遊歩道の作り方への工夫の無さが気になりました。
- ・ 落合川での素晴らしい業績や活動についてビデオフィルムなどを作っては如何でしょうか？新高橋から朝霞県土整備事務所付近までの川づくりは、話には聞いていましたが流石と思えるほど多自然型川づくりの見本になるものでした。市民団体の皆さん、また行政の皆さんの協働の成果であると思いました。
- ・ 本日の見学会に参加して、川も人も同じように、それぞれに個性があり、マニュアル通りには行かないことを感じました。市民と行政が10年余り話し合っ、ようやく南沢水辺公園（水川神社の河畔林）や憩いの水辺をはじめとする東久留米市内の水と緑が守られ、誇れるようになったということをつくづく感じさせられました。これらは、市民のねばり強い行動と行政の理解から生まれた結果であり、その中心に湧水があったのではないかと思います。

不老川の魚類調査をレポート！

去る11月3日（文化の日）に不老川で魚類調査が行われました。参加メンバーは小林一巳さんをはじめとする「黒目川に親しむ会」の皆さんに、「エコシティ志木」、「ふじみ環境クラブ」、「東川を愛する会」、「北川かっぱの会」より駆けつけた精鋭6名です。

地元でこれを迎えるは、「不老川流域川づくり市民の会」の相馬さん他1名。総勢8名での魚類調査がスタートしました。

調査箇所は下流の2箇所、久保川の合流点の上下流および久保川と不老橋の上下流です。

まずは、久保川の合流点付近。最近の改修時に設けられた低水路の親水施設で、相馬さんからの挨拶と、各々の簡単な自己紹介を済ませ、早速川へと入ります。

胴長着用で右肩から魚籠を下げ、左手にはタモ網のお決まりのスタイルの面々が、小林さんの合図をきっかけに数名ずつの3班に分かれ、上下流および久保川へと散って行く様子は、さながら魚類調査のプロ集団のようでした。

30分ほどで捕獲を終え、用意した水槽に移して個体観察をする頃には1人2人とギャラリーも集まり、「へ〜この川にもこんなに魚がいるんだ」と、皆さん一様に驚いている様子でした。

ここでは、タモロコやギンブナ、モツゴなどが捕れました。相馬さんいわく「2年前の調査時にはドジョウしか捕れなかったが、今回の改修で落差工が外れ、たいふ魚が逃げてくるようになった」とのことでした。

次は10分ほど車を走らせた少し上流、不老橋（エースコック工場脇）付近での調査です。例のごとく合図の下、再び各班が上下流へと散って行きます。不老橋の上流には、肩まで浸かりそうな水深の深い箇所があり、胴長の上（胸の辺り）から水が入るのではと心配して見ましたが、ギリギリのところで投網を打ち、事無きを得ていました。

ここは、見た目の水質はきれいなのですが、残念ながらドジョウとアメリカザリガニしか捕れませんでした。「ドジョウは川の生き物の最終型かな。ドジョウはエラ呼吸以外に肺呼吸もできるので、水が濁れるような川でも生息できるんだよ」と小林さん。この地点で水濁れが起こること、下流からここまで魚が逃げてこないであろうことが、今回の調査より分かりました。

ところで、今回の魚類調査がどのような経緯で行われたのかを相馬さんに聞いてみたところ、「改修で落差工が無くなって少しは魚が逃げてくるようになったかな？」という疑問に、小林さんらが答えてくれたとのことでした。

皆さんの近くにある川にはどんな魚が生息しているのか？どうにも気になって仕方のない方は、「黒目川に親しむ会」の小林さんにそっとお願いしてみると、悩みが解決できるかも知れませんね！



合図とともに上下流へと移動



地元の方を交えての記念撮影



胸まで浸かって大丈夫でしょうか？

